

第3回テーマ

## 学生スポーツに見る、体育会系のモチベーション

お正月はアマチュアスポーツが盛んで、色々なウィンタースポーツをテレビで楽しむ事ができる。個人的にスポーツが大好きなので、箱根駅伝や大学ラグビー、高校サッカーなどを観戦していた。

もちろんスポーツだから勝ち負けはつくが、プロスポーツとは異なり、試合後は勝者も敗者も全力を尽くした表情に感動を覚える。しかし、たった1度しかない大舞台で、失敗が許されない状況の中で、なぜメンバーはあれだけ高いモチベーションを維持しながら集中できるのだろうか？素晴らしいプレーを魅せる事ができるのだろうか？「訓練の賜物だ」と言えばそうなのかも知れない。でも、そこには今の時代のトレンドではない、何か「得も言われぬ一体感」のようなものを感じる。とても不思議な感覚だ。

自分なりの答えはたった一つ。確固とした「目標」が自分のものとしてメンバー全員、体感できているからだろう。ただ勝ちたい、その気持ちだけである。良く企業では「当事者意識が足りない社員が多くて困っている」という相談を受ける事がある。スポーツのように「勝つ」という、わかりやすく「自分の事のように」思える目標を掲げるといのは実は企業にとって簡単なようでとても難しい。企業の成長が自己の成長や幸せとリンクできていなければならないのだから。

「体育会系」という言葉すら死語になりつつあるが、学生スポーツにあるモチベーションの源泉を企業活動でしっかりと活かす事はできないだろうか？キーワードは「シンプルな目標設定」と「社員個々の目標」をリンクさせる事である。単なる給与改定や処遇改善だけではない。仕事を通じて、自己実現達成のステージをどのように作るか？という事だけである。

ぜひ、混迷している時代だからこそ、十分時間をかけて、年初に目標を作ってみてはいかがだろうか？